

目指す生徒像 『○思いやりのある生徒 ○心身を鍛える生徒 ○自主的に学ぶ生徒』

□あと1か月で東日本大震災から10年！

あと1か月で10年になる東日本大震災直後の、ある一枚の写真が、私には今でも目に焼き付いて離れません。



それは左に掲載した、宮城県気仙沼市で、無数のがれきの中、唇をかみしめて水を運ぶ少年の写真です。

がれきの中を歩く少年は、当時小学5年生。震災の津波で市内の自宅が全壊し、近くの親戚の家に身を寄せていました。そこは6畳一間で、15人が共同で生活していたそうです。

少年は「みんなの役に立ちたいから。」と悲しみをこらえ、自らも大震災の時に負った怪我を隠して、黙々と井戸水を毎日何回も運んでいたそうです。

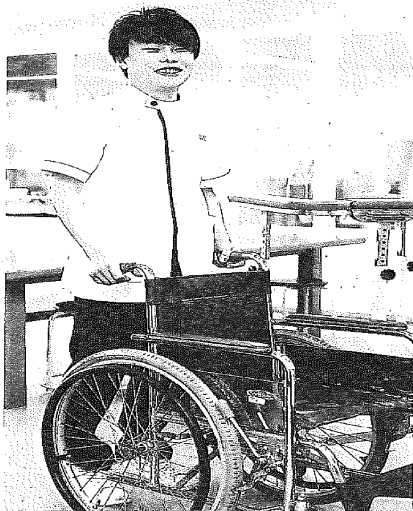
右の新聞記事は震災4か月後に、「水くみの少年」「笑顔が成長の証し」という特集として掲載されたものです。内容は字が小さくて読めないと思いますが、家族には内緒で1か月半も水くみをし続けたこと、がれきの釘が足に刺さり怪我をしたこと、大切な家族のこと等が書かれています。私はこの記事を目にした時、感動で涙が止まりませんでした。

下の新聞記事は、今月6日の福井新聞に掲載されました。現在20歳になった彼は、将来は地元に戻って理学療法士になり、ふるさと気仙沼復興の支えになりたいと、日々懸命に勉強を続けているとのこととです。



福井新聞
2021/2/6

宮城県気仙沼市の松本魁翔さん



仙台市の専門学校で理学療法士を目指す松本魁翔さん＝1月22日

（20が水を運んだ。津波で自宅友達、断水が続き、難生活の中、井戸水をくんで運んだその姿が報

に全国各地から300人以上の手紙が届いた。送り主の一入、北海道札幌市と、通信で以来、家族ぐるみの交流が続いている。

感謝胸に、地元で恩返し

2019年に開館した最盛 県気仙沼市の「東日本大震災 遺構・伝承館」に、ひまわり 大きい写真が展示されて、 倉藤さんも「負けないで！」 とエールを送った。これまで

じられ大きな反響を呼んだ。 14年になつた俳優の高 いもなどの野菜を段ボール箱 に詰めて送った。皆さん本

東日本大震災は大切な人 や、何げない日々を突然奪い 去った。被災した人たちはど のように10年を暮らしてきたの だろうか。それぞれの、あの 時と今を写真で伝える。



がれきの残る道で水を運ぶ 松本魁翔さん＝2011年3月 14日、宮城県気仙沼市



松本さんは高校3年の時 地元や家族のために、職業 に就きたいと、お年寄りに リハビリを学ぼうと理学療法士に なることを決めた。足が不自由で 津波から逃げ遅れた人もあつ たと聞いたからだ。 約2年後の国家試験に向 け、親元を離れ仙台専門学校に通う。弁当箱に、餅田こ さんが秋送ってくれた米を握 ったおにぎりを詰めて、 あの日からの10年間、遠く から見守ってくれる人たちの つながりが力をくれた。頭 張る姿を見てもうおにぎりを 返して。感謝を胸に、生きてい くん。共同＝八田尚彦、尾 形祐介』 随時掲載します